

平成 29 年度シラバス (社会と情報)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	情報 (社会と情報)	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 学年
使用教科書	日本文教出版 『見てわかる社会と情報』				
副教材等	実教出版 30 時間でマスター 『Word 2016』・『Excel 2016』・『PowerPoint 2016』 ワープロ実技検定模擬試験問題集				

1. 学習目標

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、コンピュータの取り扱いや保守に関する知識と技術を習得させ、情報システム技術を活用する能力と態度を育てる。

2. 指導の重点

情報産業の発展と社会とのかかわりについて理解し、コンピュータを活用した学習を通し基本ソフトウェアとアプリケーションソフトウェアの役割・情報通信ネットワークの特徴について総合的に理解し扱うことができることを目指します。

3. 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5	○情報化が社会に及ぼす影響と課題 ○情報機器の基本的な使い方 (1 学期中間考査)	○個人認証とアクセス制御 ○暗号化 ○コンピュータウイルス対策 ○情報機器やそのしくみ ○キーボード入力 ○ Word の使い方	○情報セキュリティを高めるための様々な方法を理解する。 ○情報化が及ぼす影響を理解する。 ○情報機器の特徴と役割について理解させる。 ○情報機器の基本操作を確認し、習得する。 ○ Word の基本機能を習得する。	10	定期考査 授業の取組
6 7	○情報機器を利用するときの注意点 (1 学期期末考査)	○携帯電話やインターネットにおける注意点 ○情報を発信するときの注意点 ○情報機器と人権 ○著作権や肖像権の保護 ○インターネットショッピング	○コンピューターやインターネットを利用する際の注意点を理解する。 ○基本的な情報モラルやマナーを身につける。	10	定期考査 授業の取組
9 10	○情報ソフトの基本的な使い方 ○問題解決の手順と方法 ○情報をわかりやすく伝える ○情報セキュリティの確保 (2 学期中間考査)	○ Excel の使い方 ○ Excel の表計算機能活用方法 ○問題の発見と情報収集・整理	○ Excel の基本機能を習得する。 ○表計算ソフトウェアを活用した情報の分析方法を習得する。 ○問題を解決する手順と方法を理解する。 ○望ましい情報社会のあり方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解する。	12	定期考査 授業の取組
11 12	○情報社会における法と個人の責任 ○情報のデジタル化 (2 学期期末考査)	○情報化による利点と課題 ○サイバー犯罪 ○10 進数, 2 進数, 16 進数	○情報社会には大量の情報が流通していることを理解する。 ○知的財産を保護することの必要性とそのため の法律、個人の責任を理解する。 ○情報のデジタル化の仕組みを理解する。	12	定期考査 授業の取組
1 2 3	○情報ソフトの基本的な使い方 ○情報通信ネットワークとコミュニケーション ○情報通信ネットワークのしくみ ○望ましい情報社会を築く (学年末考査)	○ PowerPoint の使い方 ○情報のコミュニケーション手段とメディア ○コンピュータネットワーク ○社会における情報システム	○プレゼンテーション用ソフトウェアを活用した情報発信の方法を習得する。 ○コミュニケーション手段の発達、情報の特徴、メディアの意味を理解する。 ○情報通信ネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ○情報システムの種類や特徴を理解し社会生活での役割と影響を理解する。	20	定期考査 授業の取組

計 64 時間 (55 分授業)

4. 課題・提出物等

○各単元ごとにワークシートや課題レポートの提出を指示することがあります。

5. 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報の役割・コンピュータ・情報通信について関心・興味を持ち意欲的に知識の習得に取り組もうとしている。	情報化の進展が生活に及ぼす影響を考え、情報を収集・処理・発信する方法を工夫し、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	情報技術に関する基礎的な技術を習得している	コンピュータの機能とソフトウェアの役割を身につけ、情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。
以上の観点を踏まえ ○授業への取組状況（授業態度，出席状況，学習参加状況） ○課題、レポート等の提出物 ○定期考査 などから、総合的に判断します。			

6. 担当者からの一言

現代社会の一つの核となっている「情報技術」について、数学的視点や道徳的視点など、いろいろな角度から眺めつつ学習を進めてください。

(担当：長澤 淳)